資料3

釜石は、サステナブルツーリズム（観光SDGs）先進地を目指して取り組みを続けています。

まち全域が「屋根のない博物館」としてプロデュースされている釜石は、
「住民が生き生きと暮らせるまちこそ、真に楽しめる観光地である」という理念のもと、
４つの指標に沿った「持続可能な観光地」の実現を目指しています。

マネジメント
社会経済・文化・環境のバランスの取れた観光を実現するための、管理・運営を行う。

社会経済
地域経済・コミュニティに、ポジティブな影響を与える。

文化
有形・無形の文化遺産を保護し、かつ利用しやすい形にする。

環境
資源を有効活用し、かつ自然環境への負荷を減らす。

これら指標の実現のため、2016年「持続可能な観光（サステナブルツーリズム）」の国際基準（GSTC）を取り入れることを決定し、取り組みを続けてきました。

主な実績

2018年に観光地の国際的な認証機関である「グリーン・ディスティネーションズ」において、日本で初めて「世界の持続可能な観光地100選」に選出されました。

その後も、持続可能な観光（＝サステナブルツーリズム）への取り組みについて、数々の評価や賞をいただいています。

- 世界の持続可能な観光地 100選 2018年選出
- 世界の持続可能な観光地 100選 2019年選出
- 世界の持続可能な観光地 100選 2020年選出
- 世界の持続可能な観光地 100選 2021年選出

2018	日本で初めて、「世界の持続可能な観光地100選」に選出
2019	「世界の持続可能な観光地100選」に2年連続で選出 「グリーン・デスティネーションズ・アワード」ブロンズ賞を受賞 「サステイナブル・デスティネーションズ・アワード」アジア太平洋部門シルバー賞を受賞
2020	「世界の持続可能な観光地100選」に3年連続で選出
2021	「世界の持続可能な観光地100選」に4年連続で選出

釜石の主な取り組み

- 観光SDGsマネジメント（全体計画策定、運営管理、モニタリング等）
- 観光従事者を増やす活動（体験プログラムの企画、インストラクターの養成など）
- 釜石小中高校への観光教育の実施
- 地域商社事業による、食材の地域調達率を上げるための活動（ジオ弁当、ジェラート）
- 津波の伝承活動、および防災教育への取り組み
- 森林クレジットの購入による、来訪者へのカーボンオフセット
- プラスチックを使用しないイベント開催
- 岩手大学、東京大学海洋研究所と連携した、学習プログラムの企画運営
- 廃食油を活用した社用車の利用（バイオエネルギーの活用）　など

ジオ弁当
修学旅行や企業研修で訪れた人に釜石の地形や文化を食べながら学んでもらおうと、地元企業が共同開発。

三陸氷菓
地元釜石の原材料に徹底的にこだわり抜き、地元の生産者さんが自信を持って提供する素材の味をジェラートにしました。

漁船クルーズ
震災でなくなってしまった遊覧船の代わりに、地元漁師と提携。漁が終わった昼間の空いている時間に、観光客を乗せる漁船クルーズを企画。

国連世界観光機関（UNWTO）は、SDGs達成において「持続可能な観光（＝サステナブルツーリズム）」は重要な役割を担っている、として
その必要性を強調しています。「持続可能な観光」への取り組みは、観光を通したSDGsへの取り組みともいえるのです。
住民が生き生きと暮らせるまちを作るため、釜石は今後も「サステナブルツーリズム（観光SDGs）」に注力して取り組んでまいります。

詳しく知りたい！

サスティナブルツーリズム研修

こんな方におすすめ！ DMO　自治体関係者　地方創生に関心のある企業

「住まう誇りの醸成」と「稼ぐ力を引き出す」ことを目的に活動し、自立した法人運営を実現しているかまいしDMC。2021年には観光庁長官表彰も受賞しました。地方創生の推進と収益化を両立するための工夫や、以前は「観光地」とは言えなかった釜石が、「持続可能な観光地」として数々の賞を受賞するまでに至った背景や取り組みを、事例とともに詳しくお伝えいたします。

OPEN FIELD MUSEUM KAMAISHI

まち全域が、「博物館」

発行：株式会社かまいしDMC

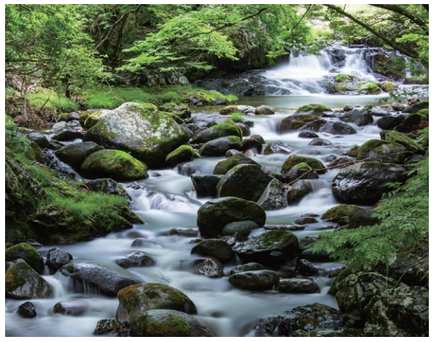
釜石オープン・フィールド・ミュージアム構想とは？

**“釜石全域を「屋根のない博物館」と見たてた観光地域コンセプト
住まう誇り・郷土愛を醸成しながら、観光地域づくりを行う仕組み”**

CONCEPT
目指す未来

住民と来訪者で、持続可能な観光地を実現する

- 釜石のファン・関係人口を増やし、継続来訪を促進することで、経済的な持続性を保つ。
- 住まう誇り・愛着の醸成、および関係人口・移住者の増加の促進により、まちの人口を保つ。
- まちの歴史や伝統文化、記憶を保存し、未来に継承する。
- 自然環境の保全により、まちの魅力を保ち、さらなる観光資源の発掘に繋げる。



CONCEPT
観光地域づくり

オール釜石で地域の宝を発掘し、来訪者に紹介する

- 地域の宝とは、自然、歴史、文化、住民の生き様や生業、地場産品・サービスなどを指す。
- 発掘とは、地域の宝を発見・再確認し、「博物館」として楽しめるよう磨き上げること。
- 紹介とは、地域の宝と来訪者を様々な形で繋げ、ファンづくりをすること。
- 発掘・紹介の過程で、住まう誇りや郷土愛が醸成され、地域活性の担い手となる人財が育つ。

CONCEPT
来訪する価値

来訪者は、地域の宝を何気なく体感し、楽しめるから、面白い

- 「屋根のない博物館」であるこのまちでは、地域の宝に何気なく触れ、価値を感じ、楽しむことが出来る。
- 宝を知るほど面白く、訪れるほど、より深く楽しむことが出来る。
- 宝に触れる中で活力を得られ、また気付きや学びの中で視野が広がり、新たな可能性が見つかる。

OPEN FIELD MUSEUM
KAMAISHI

この構想は、どのように誕生したのか？

1 「観光」を通して、釜石市を復興させよう

基幹産業の衰退、人口減少などの課題を抱えていた釜石は、3.11の被害により、大きな傷を負った。復興に際しては、住民が誇り・郷土愛を感じられるまちづくりをしたい。加えて、釜石には観光資源になりうる魅力が残っている。

2 住民と共に観光地域づくりを行う「フィールド・ミュージアム」を知る

フィールド・ミュージアムとは、エリア全体を「博物館」と見立てる、観光地域づくりの概念の一つ。住民が観光地域づくりに参加するため、地域への誇り・郷土愛が醸成される。また、地域活性化を担う人財育成にもつながる。

3 「フィールド・ミュージアム」になりうる事業での手ごたえ

震災後に復活したイベント等、フィールド・ミュージアムになりうる事業を開始。試行錯誤の結果、事業が磨き上げられ、参加者は徐々に増加。確かな手ごたえを感じ始めた。

4 「滞在交流型観光」へのニーズの高まり

大型名所を観光バスで巡るような「スポット型観光」が流行したが、今は1か所に滞在し、自然、文化、人々との交流や体験を楽しむ「滞在交流型観光」のニーズも徐々に高まっている。

5 「フィールド・ミュージアム」の採用を決定

「フィールド・ミュージアム」は、まさに「滞在交流型観光」の一形態。「住民が生き生きと暮らすまちこそ、真に楽しめる観光地だ」との考えのもと、観光地域づくりを通して住民の誇り・愛着を醸成する「フィールド・ミュージアム」の採用を決定。

6 「オープン・フィールド・ミュージアム」こそ、釜石が目指す観光だ

釜石の大きな宝の一つは、この地に住まう「寛容でオープンな人々」。この宝の要素を取り入れ、「オープン・フィールド・ミュージアム」を、釜石の観光地域コンセプトに掲げた。

この構想が、最も大切にしている考え方とは？

“住民が生き生きと暮らすまちこそ、真に楽しめる観光地だ”

住んで良し、訪れて良しという言葉がある。
どちらが先だろうか？
釜石は、「住んで良し」こそ大切だと考えている。
この地に住まう人が、生き生きと暮らせるまちだからこそ、
観光客も心から楽しむことが出来るのだ。

このまちに、ずっと住みたい。大好きだから。
そんな住民の誇り・郷土愛を育み、
関係人口や移住者を増やし、
次世代へ連綿と受け継がれる観光地域を作っていく。